

【注 意】

当記者発表資料の掲載画像の無断利用や複製はご遠慮ください。

(作品画像の利用を希望される場合は、「広報用画像利用申請書」のご提出をお願いします。)

SPECIAL EXHIBITION CELEBRATING THE 70TH ANNIVERSARY OF MATSURA HISTORICAL MUSEUM AND THE 20TH ANNIVERSARY OF KYUSHU NATIONAL MUSEUM
THE STORY OF HIRADO: EXPLORING THE PASSIONS OF MATSURA SEIZAN AND HIROMU



松浦史料博物館開館70周年記念・九州国立博物館開館20周年記念 特別展

平戸毛ノ語り

まつ せいざん ひろむ じょうねつ
松浦静山と熈の情熱



記者発表資料

本展覧会の概要

◎展覧会会期

2026年1月20日（火）～3月15日（日）

前期：1月20日（火）～2月15日（日）

後期：2月17日（火）～3月15日（日）

◎主催

九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、西日本新聞イベントサービス

◎共催

（公財）九州国立博物館振興財団

◎特別協力

公益財団法人松浦史料博物館、太宰府天満宮

◎後援

福岡市、太宰府市、太宰府市商工会、太宰府観光協会、佐賀新聞社、長崎新聞社、西日本鉄道

「平戸展」と
呼んでください！



本展覧会のアピールポイント

その1

初公開作品多数! 知られざる松浦家・平戸の文化財を紹介!

その2

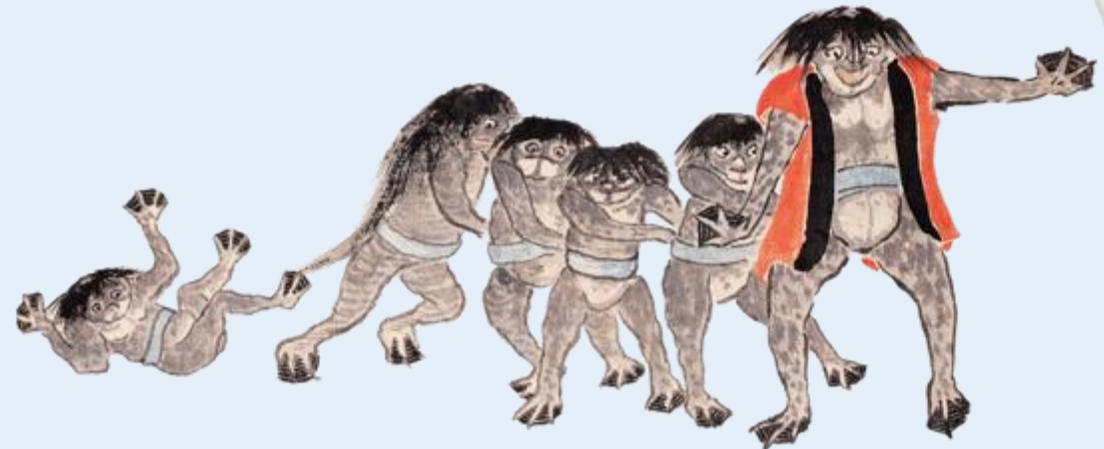
作品にまつわるストーリーも楽しんでいただく、
これまでの近世大名家資料の展覧会とは一味違う展覧会!

その3

一部作品を除き、写真撮影OK!
(※個人利用に限ります)

その4

高校生以下・18歳未満は無料!



本展覧会の説明に入る前に・・・

気になることが多すぎる！・・・と思います。

気になるポイント①

スライドの上下に映っている男性は誰なのか？

気になるポイント②

なぜ、九博で平戸の展覧会を行うのか？

気になるポイント③

なぜ、変なタイトルなのか？



気になるポイント①について

スライドの上下に映っている男性は誰なのか？

★本展覧会の主役（その1）

まつらきよし せいざん
9代目の平戸藩主・松浦清（静山）

★本展覧会の主役（その2）

まつらひろむ
10代目の平戸藩主・松浦熙

本展覧会では、清のことを、
一般的に名が通っている
「静山」と呼んでいます。

「キャラが濃い」親子 静山と熙



まつらせいざん
松浦静山
(1760-1841)

memo

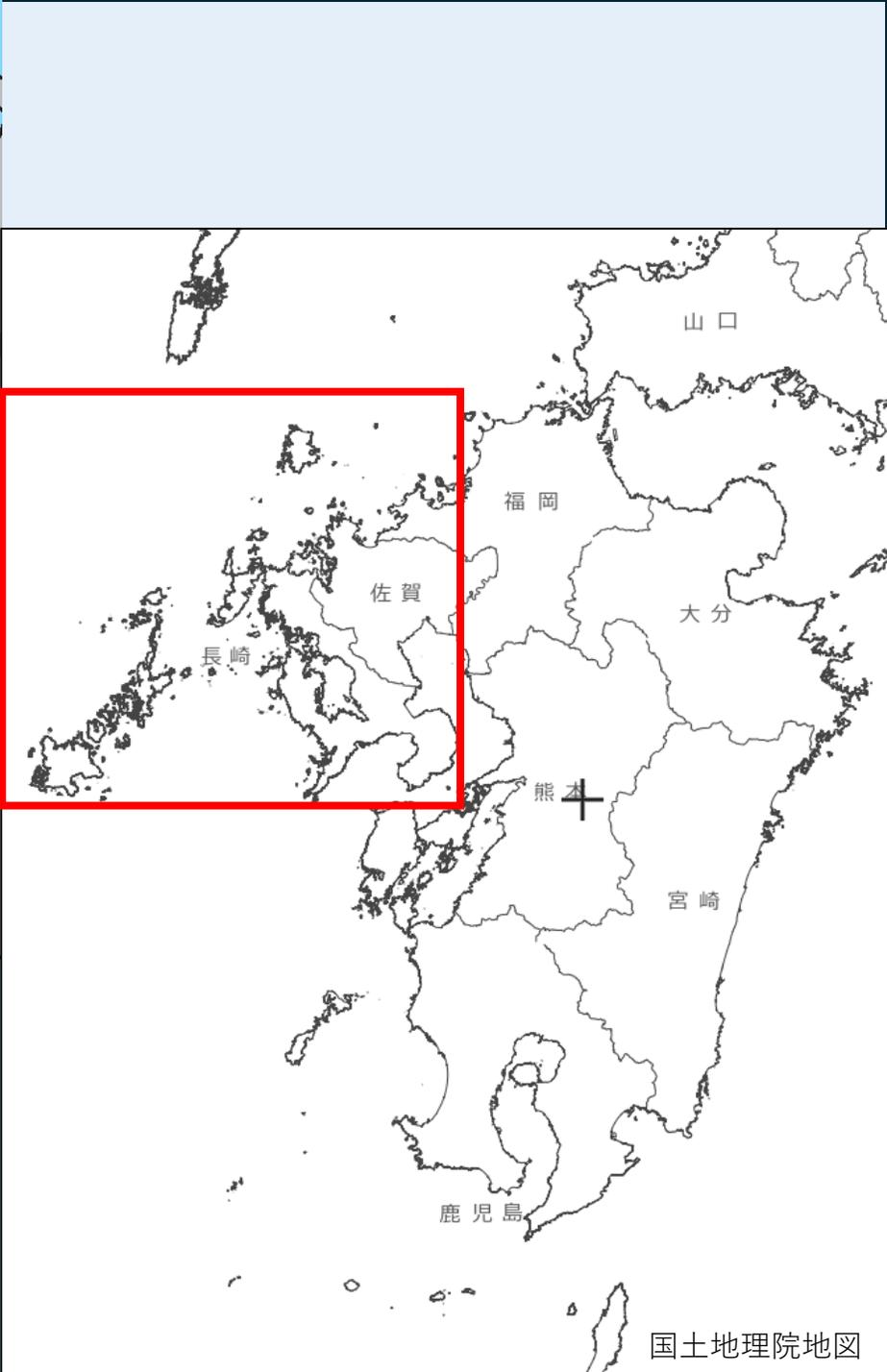
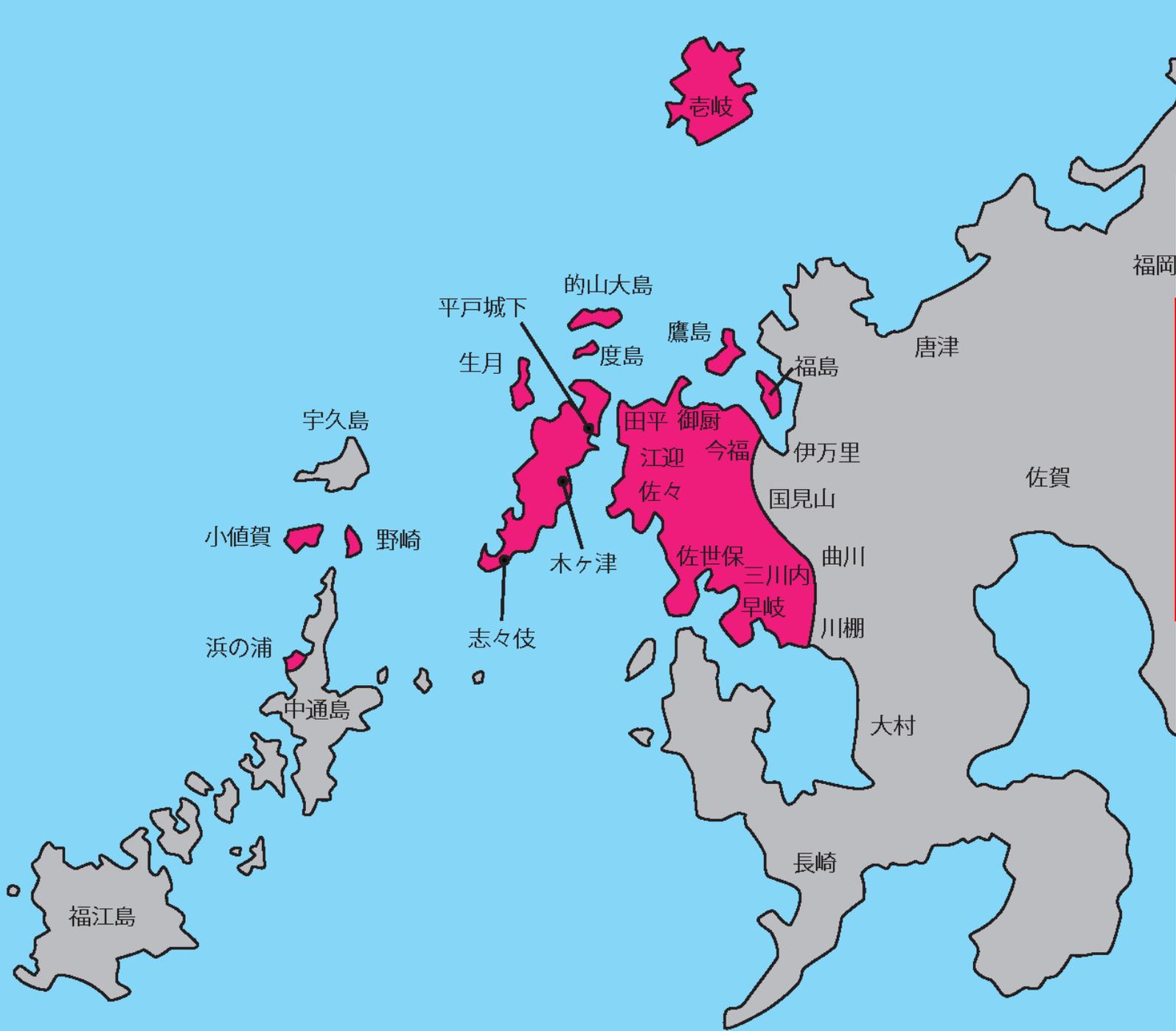
- ✓ 「生まれながらのお殿様」
…ではなかった
- ✓ おばあちゃんっ子
- ✓ 妖怪・河童が好き、都会が好き、モノを集めるのも好き
- ✓ 茶の湯は苦手、肖像を描かれるのも嫌い
- ✓ 好奇心旺盛、ガツガツしている？
- ✓ 初対面の人にもお願い事ができる「鋼のメンタル」
- ✓ 記録魔



まつらひろむ
松浦熙
(1791-1867)

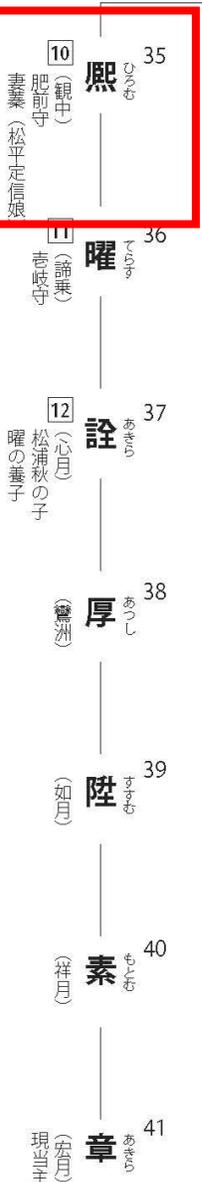
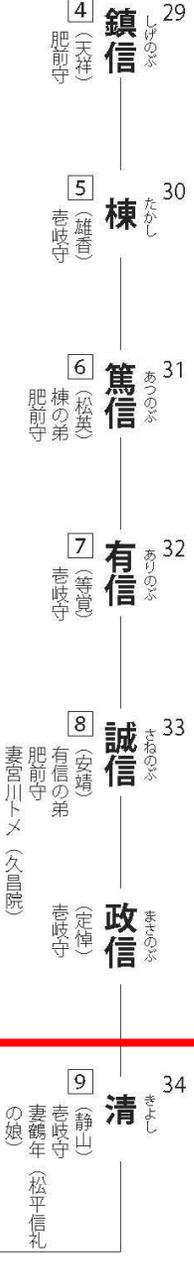
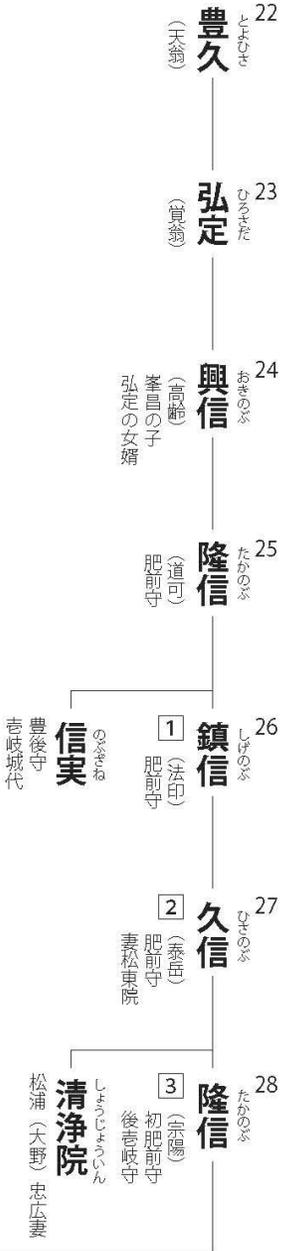
memo

- ✓ 父から出世を期待され、英才教育を受ける
- ✓ 真面目で優等生タイプ、だからこそ悩みも多い
- ✓ 運動不足解消のために蹴鞠を始める
- ✓ 地元が好き、能が好き、自分のことも大好き
- ✓ 母の貯金で甲冑を作る
- ✓ 父と同じく記録魔



松浦家略系図

※右肩の数字は松浦家歴代当主の順番を示す。左肩の四角で囲んだ数字は平戸藩主の順番を示す。



※本系図は『中野平戸 年表と中説』（松浦史料博物館、1962年）、『長崎県史（藩政編）』（吉川弘文館、1973年）、松平兼昌監修・朝日新聞社西部企画部編『平戸・松浦家名宝展』（2000年）を参考に作成した。

気になるポイント②について

なぜ、九博で平戸の展覧会を行うのか？

◎5年間の調査から分かったこと

静山と熙ゆかりの文化財が非常に多い
静山の収集量、熙のメモ・書付の多さ

これは「普通の大名家」ではないぞ、静山・熙の「沼」にはまる
「子孫永宝」、「モノを遺し、歴史を遺し、想いを遺す」意識

◎モノを集め、守り、伝えること

伝わるのはモノだけか？「想い」も一緒に伝わる

◎九博の役割とのリンク

開館20周年事業の最後の特別展として

静山の蔵書印「子孫永宝」



気になるポイント③について

なぜ、変なタイトルなのか？

◎ 「普通の大名家」コレクションではない？

静山と熙が自分の言葉と想いをたくさん書き残す
異彩を放つ一大コレクション

◎ 「殿様と対話している」かのような感じ

モノを通じて人を感じる—日常生活ではよくあること
展覧会でも日常的な感覚を味わってほしい

◎ 「モノを集め、守り、伝える」ことへの2人の想い

「情熱」と表現

2人がモノを通じて語りかけてくることを紡ぎ出して物語に

◎ 「物語」ではなく「モノ語り」なのか

静山と熙が残した文化財というイメージを想起させるフックになる

本展覧会の構成

出品件数 **全103件**
うち、**重要文化財2件**

- ・通期展示 56件
- ・前期のみ 20件（重文1件）
- ・後期のみ 27件（重文1件）

第1章 静山モノ語り—交流・収集・考証—

- ・静山の交流
- ・静山の人柄
- ・静山の収集と考証

第2章 熙モノ語り—先祖への想い、子孫への想い—

- ・熙の人柄
- ・後世に遺すために行った修復
- ・先祖ゆかりの文物の収集
- ・熙こだわりの「神龍鎧」

第3章 特別公開『家世修古図』と松浦家・平戸の宝

- ・初公開の『家世修古図』
- ・掲載される松浦家の家宝

第1章 静山モノ語り—交流・収集・考証—

- ・ 静山の交流
- ・ 静山の人柄
- ・ 静山の収集と考証

第1章のポイント

- ◎モノの歴史への関心、歴史考証
- ◎知識層・文化人とのネットワーク
- ◎収集とは単なる「古物趣味」ではない
- ◎後世に歴史を遺すという情熱



第一章

静山の「好古家」仲間
ナニワの大収集家

静山モノ語り

— 交流・収集・考証 —



重要文化財

きむらけんかどうぞう

木村蒹葭堂像

谷文晁筆

江戸時代 享和2年（1802）

大阪府教育委員会

1/20（火）～2/8（日）



「鳥獣戯画」風？ 静山大好きカッパの絵巻

河太郎 = 河童 (カッパ)

かわたろうず 河太郎図

伝松浦清筆 江戸時代 18~19世紀
長崎・松浦史料博物館 <通期>

第一章

静山モノ語り

— 交流・収集・考証 —



静山の興味の広さを示す
ユーモラスな妖怪図鑑

ひやくものがたりばけものず
百物語化物図

江戸時代 18～19世紀
長崎・松浦史料博物館

〈通期〉



平戸城



楽歳堂跡

平戸城本丸

亀岡神社

今に残る楽歳堂の唯一の痕跡



らくさいどう かわら

楽歳堂の瓦

江戸時代 18世紀

長崎・松浦史料博物館

〈通期〉

← 楽歳堂の跡地に建つ碑

静山の「魂」 考証を加えたコレクション目録



ひらどはんらくさいどうぞうしょもくろく 平戸藩楽歳堂蔵書目録

松浦清筆（一部異筆）、藤原順職ら8名編
江戸時代 天明5年（1785）頃～寛政12年（1800）頃
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

世之所珍貴莫不備存焉今茲夏
公自爲之目次因謂成德知義莫如
於書文教武備亦不可不由之此其
寡人之所以耽書且其購求不已已
也夫人性之不同父不能保之於子
子不能得之於父固耳若後世子孫
有其人出則可矣萬一有鹽鐵不雅
者出則爲覆醬亦不可知矣汝等其

以是頌匪諸祀夫祀之所匪必傳久
者也積年之後縱令此書散逸幸有
目次之存則庶幾後世知寡人之志
矣乎哉臣等唯唯奉命因錄爲叙云
若夫每卷以平戶藩藏書子孫永寶
樂戲堂圖書記三印爲記者蓋恐僣
之所匪混雜也惟時
天明乙巳年秋七月

：積年之後、縱令此書散逸、幸有
目次之存、則庶幾後世知寡人之志
矣乎哉：

将来、たとえ収集した書物が散逸し
たとしても、この目録は残る。後世
の人々が私の志を知ることが願う。

序文

第一章

静山モノ語り

— 交流・収集・考証 —

静山の名を一躍有名にした江戸時代の一大エッセイ

静山モノ語り

— 交流・収集・考証 —



長崎県指定有形文化財

かっしやわ

甲子夜話 巻第1

松浦清著 江戸時代 嘉永6年(1853)写

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

「あなたが耳に蓄えたこと、目に映ったこと、
 古人の善き言動を書いて子孫に伝えたほうが
 よい」と林述齋が静山に言ったのに対し、静
 山は「そのとおりだ」と答え、その日の夜か
 ら書き始めた。甲子の日の夜から書き始めた
 ので、『甲子夜話』と名付けた。

はやしじゅっさい

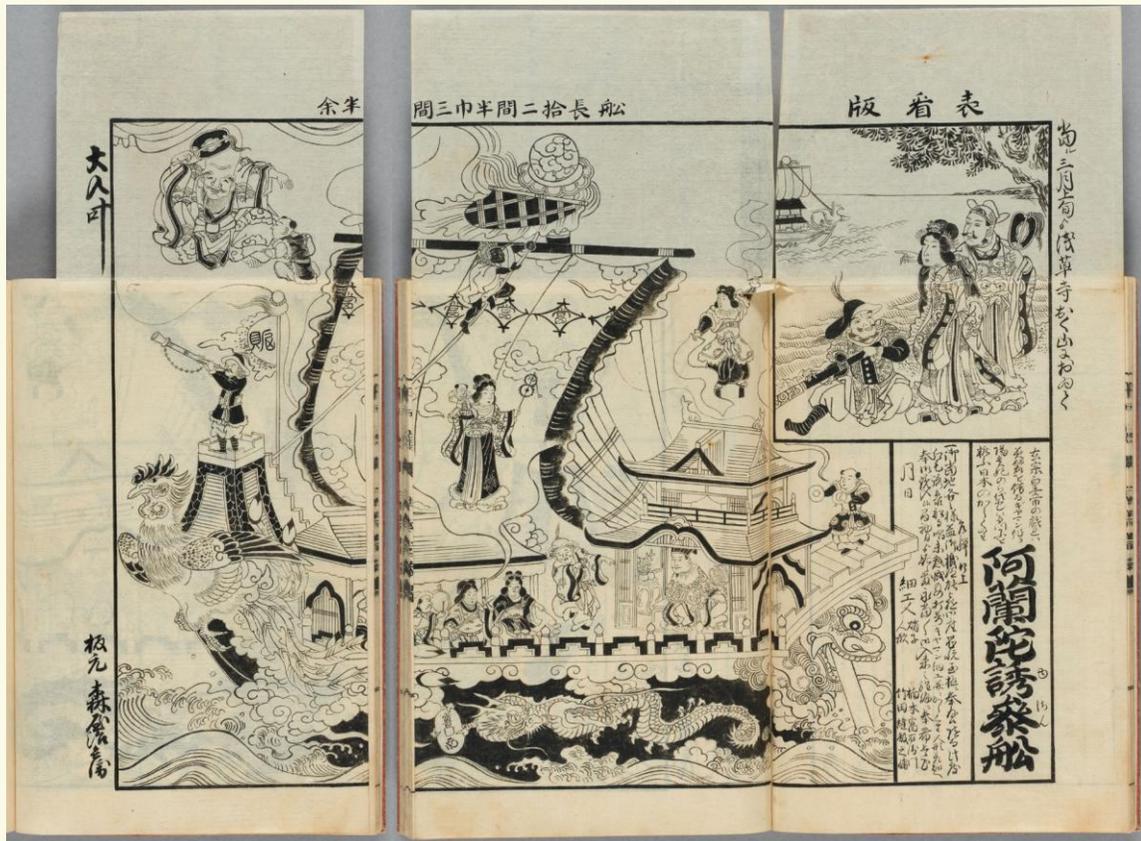
吾老公園中舊有鍛工。辛巳十一月十七日。祭酒林公
 過于。老公觀其淬打劍。既而談話入夜。謂老公曰。
 公之先君。徳祐公所述武功雜記。嚮既借寓於公。藏
 之秘府。以備史氏之用。今公齒高德。邵自少好學問。老
 而無少懈怠。其耳之所蓄。目之所涉。古人善言懿行。其與
 幾何。蓋記以傳之。使為子孫者有所法觀焉。老公曰。其
 然。豈其然。吾將以備忘。竟自其夕起稿。日積月累。成若干
 卷。名曰甲子夜話。蓋以其起稿於甲子之夕。以寓造端之
 意也。昔者管得庵。除夕詣於林羅山。謂曰。弟子未讀通監
 綱目。請先生以明春為余講之。羅山曰。子心誠求之。何待

辛巳（文政4年〈1821〉） 11月17日

第一章

静山モノ語り

交流・収集・考証



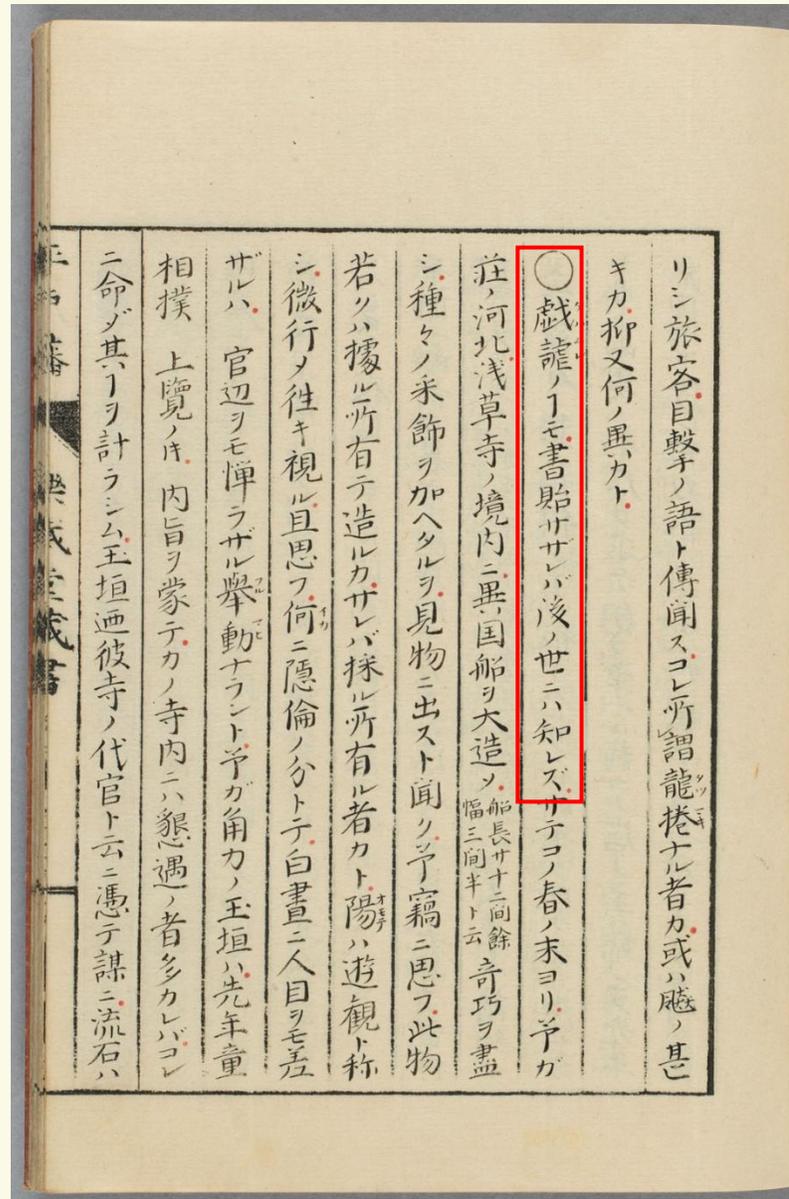
長崎県指定有形文化財

かっしやわさんぺん

甲子夜話三篇 卷第29

松浦清著 江戸時代 嘉永6年(1853)写
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

夕ハムレ
 戲謔の事モ。書貽サザレバ後ノ世ニハ知レズ。
 戲れの事も、書き残さなければ後の世には伝
 わらない。



静山が「再発見」した家宝

4代藩主・鎮信が名高き茶人・片桐石州から譲ってもらった茶入



からものぶんりんちゃいれ めい うじ
唐物文琳茶入 銘「宇治」

中国・南宋～元時代 13世紀
東京国立博物館 〈通期〉

敬愛する祖母からもらったとしても…
「真」を追求する静山



ごさんねんかつせんえまき
後三年合戦絵巻

江戸時代 18～19世紀
長崎・松浦史料博物館

〈通期〉

静山が「その場の真」を写したと評した合戦図

ながしのかっせんず
長篠合戦図



こまきながくてかっせんず
小牧長久手合戦図

ながしの こまきながくて かっせんず 長篠・小牧長久手合戦図

長篠：文政8年（1825）～文政9年（1826）

小牧長久手：文政9年（1826）～文政12年（1829）

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉



ながしのかっせんず
長篠合戦図

なぜ「真」にこだわるのか 「好古」と政治道徳

単なる「古物愛好」ではない

◎松平定信の言葉

古ければ何でもよいというわけではない。古人の心がこもっているものを無下にはしない。永く後世に伝えたい。

◎武士の本質を回復する行為、為政者としての理想

自分がいかに正統的であるか、ということを証明する古いモノが重要かつ、「真を写す」古いモノでなければならない

「益ある好古」・「役に立つ好古」

◎静山と熙が定信との思い出を語る中で

後世に「益」があり、古今の移り変わりを知るのに役立つ。決して遊戯ではない。

第2章 熙モノ語り—先祖への想い、子孫への想い—

- ・ 熙の人柄
- ・ 後世に遺すために行った修復
- ・ 先祖ゆかりの文物の収集
- ・ 熙こだわりの「神龍鎧」

第2章のポイント

- ◎ 社会矛盾が広がった江戸時代後期
- ◎ 平戸で生まれ、平戸で隠居生活を過ごし、平戸で亡くなった熙
- ◎ 先祖伝来品、地域ゆかりの資料への眼差し
- ◎ いかに平戸と後世の松浦家を守るかに情熱を注ぐ



3回も描き直させた 熙「お気に入り」の寿像

寿像

=生前に描かれる肖像画



肥前守從五位下平戸城主源朝臣松浦熙
天保三癸丑辰十一月十四日眞像

まつらひろむぞう かりぎぬじゅぞう
松浦熙像（狩衣寿像）

井手利恭筆、松浦熙賛

江戸時代 天保4年（1833）

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

まつらひろむぞう かりぎぬじゅぞう

松浦熙像 (狩衣寿像)

江戸時代 19世紀 (天保4年 (1833) 以降)

長崎・松浦史料博物館 **〈前期〉**

熙の寿像シリーズ

← 「お気に入り」を印刷・配布！

**武家たるもの、甲冑姿も必要！
でも、ボツになっちゃった→**

まつらひろむぞう かっちゅうじゅぞう

松浦熙像 (甲冑寿像)

片山長恭筆、松浦熙賛

江戸時代 天保3年 (1832)

長崎・松浦史料博物館 **〈前期〉**

肥前守従五位下平戸城主源朝臣松浦熙
天保三年壬辰十一月十四日眞像

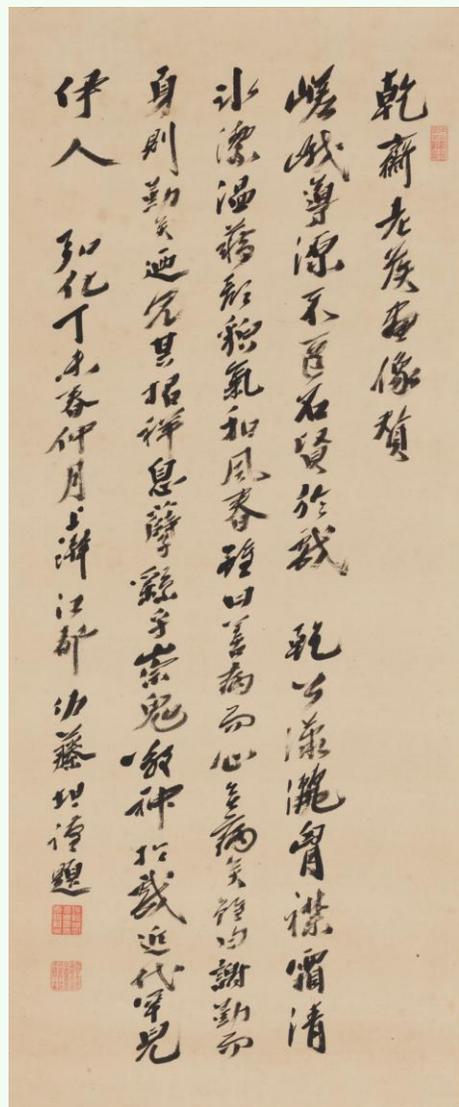


肥前守従五位下平戸城主源朝臣松浦熙
天保三年壬辰冬著神龍冠眞像



片山長恭筆

儒 = 君子の心構え



さとういっさいさん
佐藤一斎賛
弘化4年 (1847)

仏 = 死後に残る想い



まつらひろむごれいひつ
松浦熙御霊筆
嘉永4年 (1851)

神 = 君子としての姿



まつらひろむじゅぞう
松浦熙寿像
嘉永元年 (1848)

平戸と松浦家を守りたい！
熙の晩年の思想が込められ
た肖像画

まつらひろむさんぶくついでう

松浦熙三幅対像

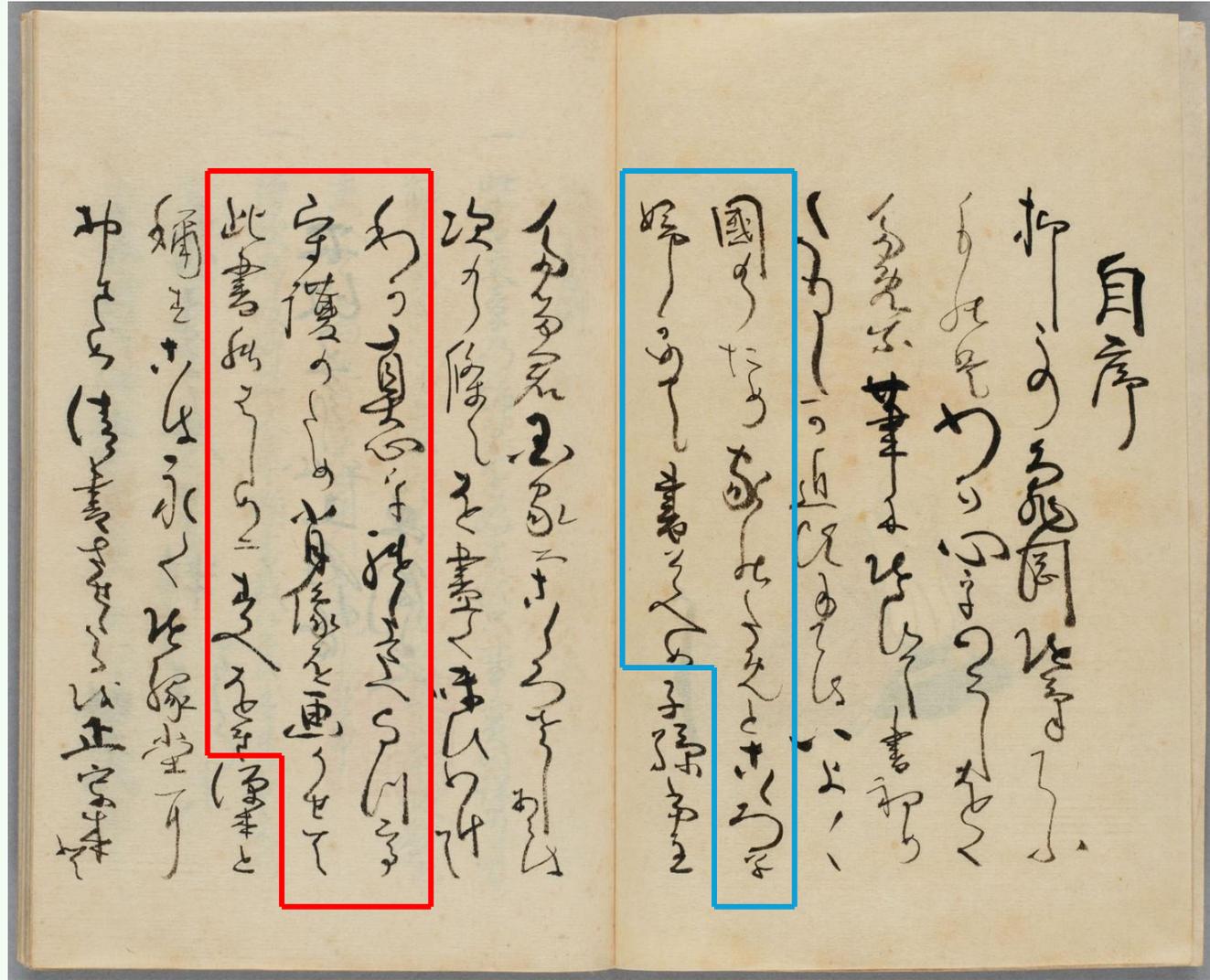
長崎・松浦史料博物館

〈後期〉

熙の「真心」そのもの 後世に向けた随筆

我が真心を継いでほしい。よって守護のため、肖像を描かせて、この書のはじめに据え置いた。

：わか真心を継たまへ、よつて守護のため、肖像を画かせて此書のはしめ二すへをき…



序文

かめおかずいひつ
亀岡随筆

松浦熙筆 江戸時代 天保4年(1833)
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

：国のため、家のためと、こゝろをふかめて書そへぬ…
「国」のため、家のためと、心を深めて書き添えた。

しょうじょういん
清浄院



たかのぶ そうよう
隆信 (宗陽)



しょうとういん
松東院



熙が修復した
先祖の肖像

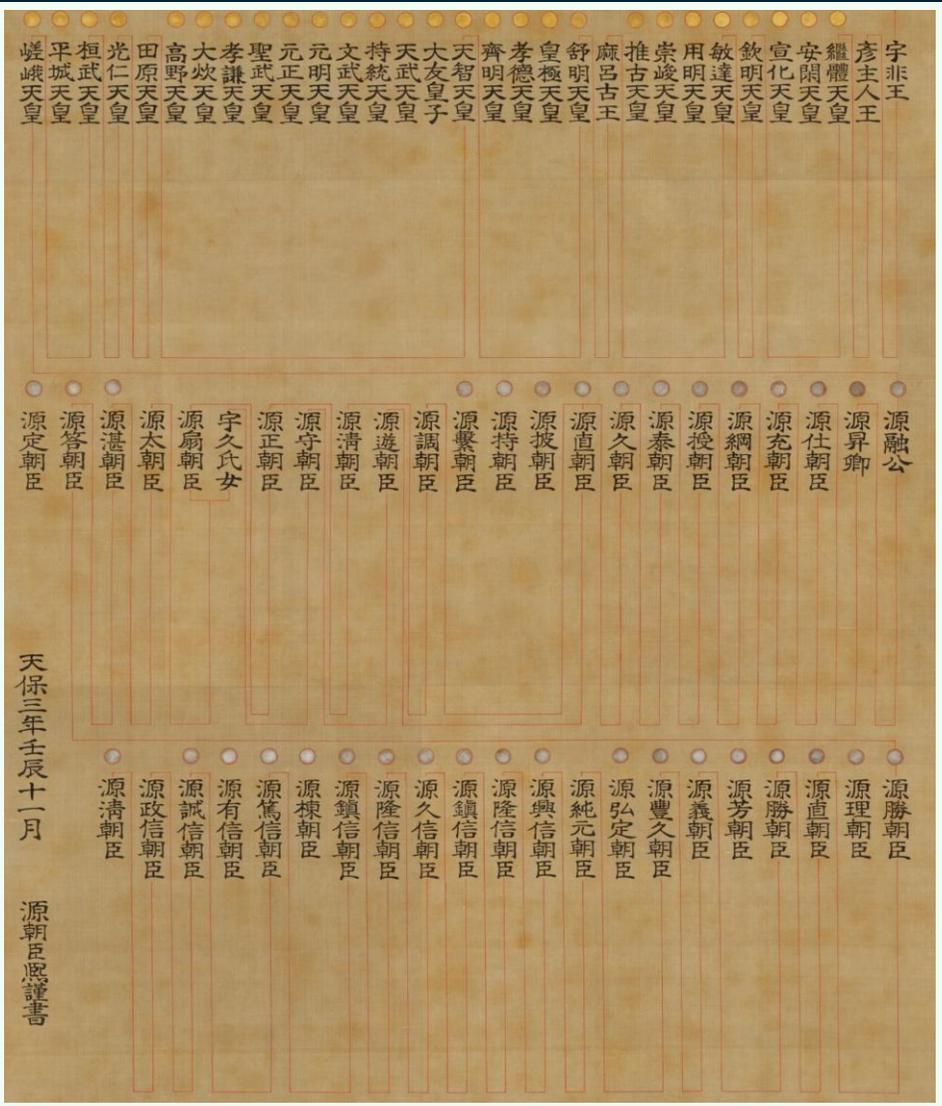
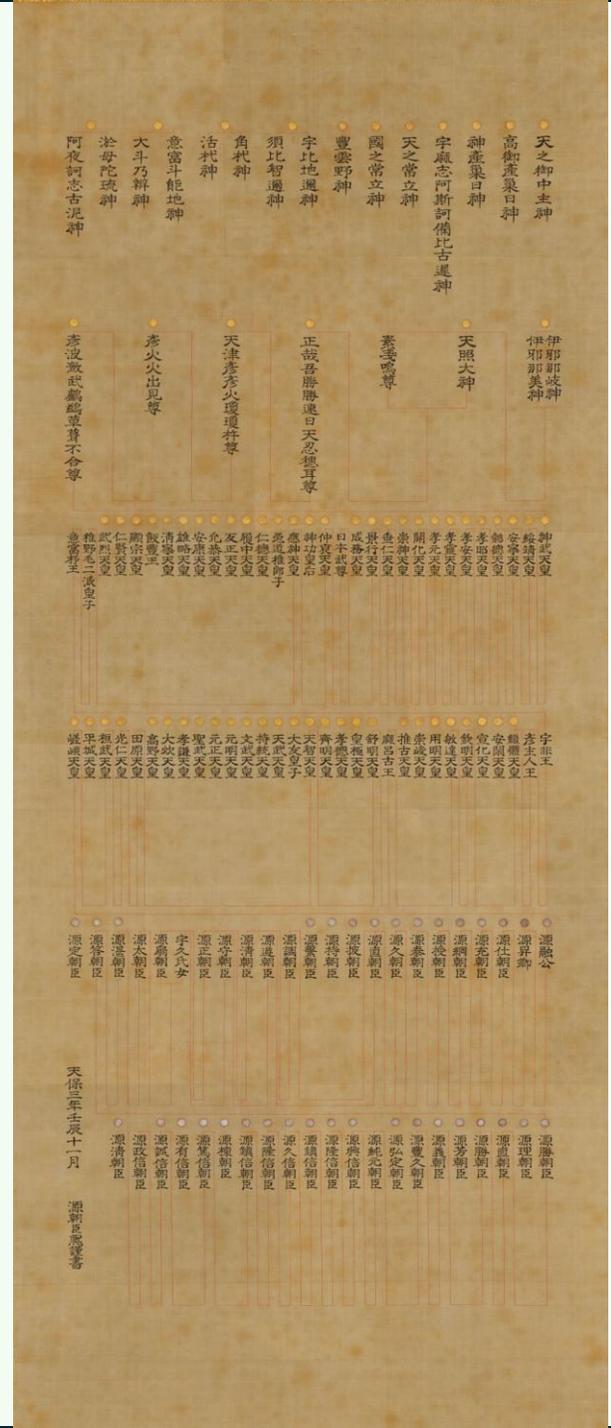
まつらたかのぶ そうよう ぞう しょうとういんぞう しょうじょういんぞう
松浦隆信 (宗陽) 像・松東院像・清浄院像

狩野安信筆・江月宗玩賛
江戸時代 寛永12年 (1635) 長崎・松浦史料博物館 <後期>

第二章

熙壬ノ語り

—先祖への想い、子孫への想い—



「神」・天皇に連なる 熙の自己認識を示す 松浦家系図

熙が考える「神」
＝平戸と松浦家を守る力を
持つ立派な君子

しんけい 神系

松浦熙筆 江戸時代 天保3年 (1832)
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉



松浦家が皇統に連なる証拠 熙が欲しくて仕方がなかった 祖先の肖像

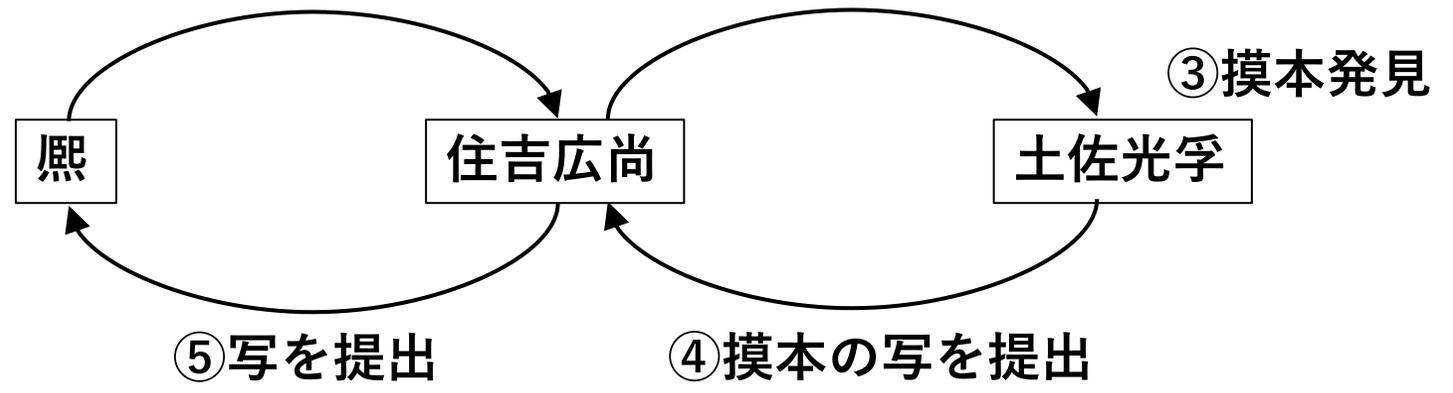
★複雑な制作経緯

① 搜索依頼

⑥ 写をもとに描かせる

② 協力依頼

③ 摸本発見



さがてんのうぞう 嵯峨天皇像

住吉広尚筆 江戸時代
長崎・松浦史料博物館

文政9年 (1826) ~ 文政11年 (1828)
〈前期〉

熙が心を込めて制作した こだわりの甲冑



あいかわかたあかいろおどしよろい

◆大内義隆が奉納した「藍韋肩赤色威鎧」を参考に

◆でも、「古い因縁」は付かないように細部を変える。

◆制作費は亡くなった母が残した貯金をあてる。

→母への敬意をこめて。

◆「神龍」

=熙にとって平戸と松浦家を守るパワーを持った君子であることを証明する言葉

しんりゅうよろい

神龍鎧

江戸時代

文政6年（1823）～文政7年（1824）

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

熙の思想の根本にあるもの

モノと文字を遺さねば伝わらない

◎熙の『亀岡随筆』の言葉

人は親子といえども心は同じではない。だからこそ、後世のために自分が遺しておかなければならないという考え。

守るために「靈力にあやかる」

◎先祖や「武」や「戦勝」を象徴する諸尊の神霊を身に付ける

先祖ゆかりのモノ、「武」を象徴するモノを収集・修復、「立派な君子」であることを証明する「神龍鎧」からパワーをもらう。

平戸と松浦家を想う気持ちが、平戸と松浦家を守る

◎収集し、修復し、制作した自分の想いも遺ることが重要

自らの姿を写した肖像や「真心」そのものである随筆、自分が使ったモノを遺すことで、想いも遺る。

第3章 特別公開『家世修古図』と松浦家・平戸の宝

- ・初公開の『家世修古図』
- ・掲載される松浦家の家宝

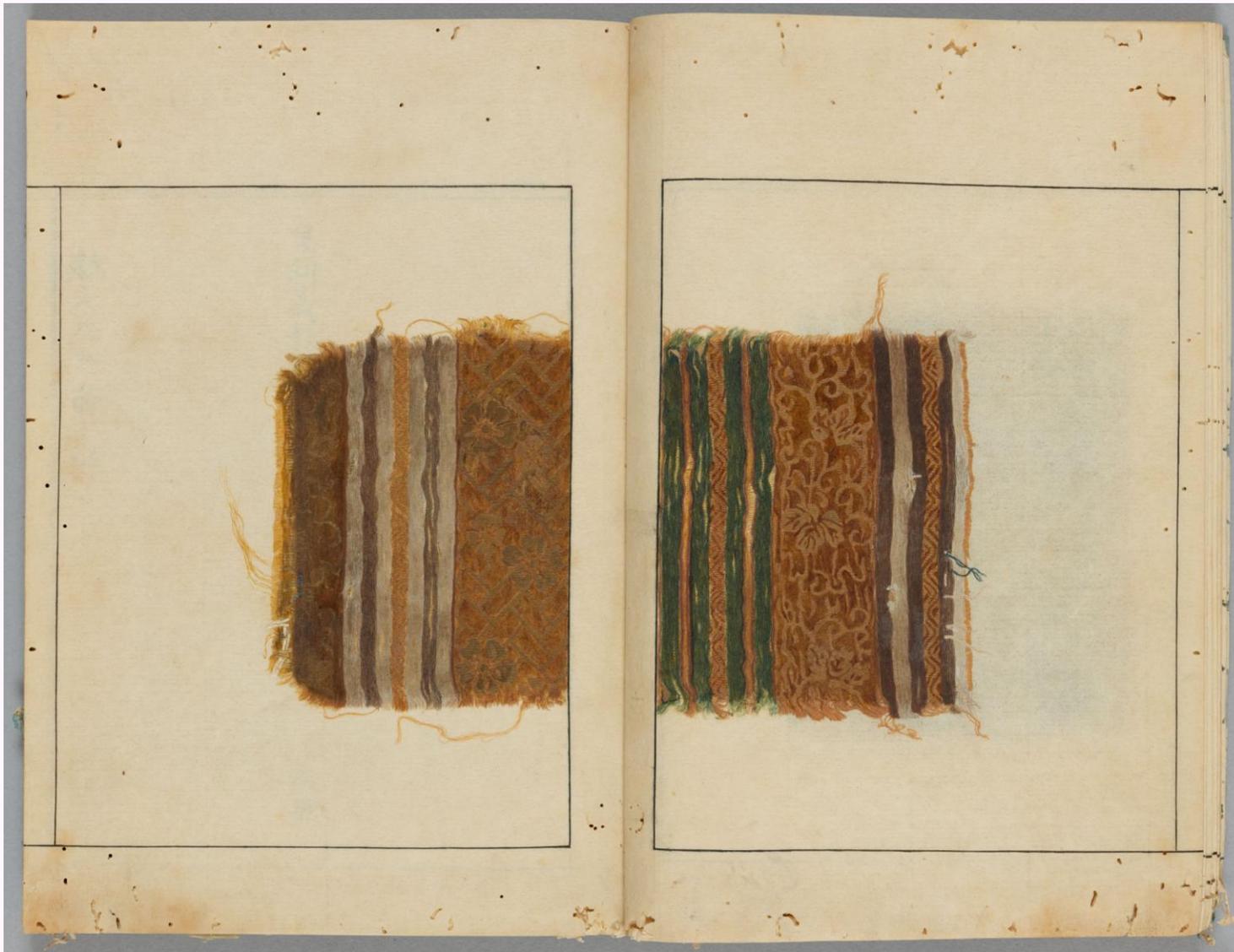
第3章のポイント

- ◎初公開・全点公開 『家世修古図』
- ◎静山と熙が見ていた色や形を追体験できる
- ◎「未来に遺したい」と願った2人の想いが本展で蘇る
- ◎現在まで残る松浦家家宝を一挙公開！

第三章

特別公開

『家世修古図』と松浦家・平戸の宝



全10冊を初公開！
松浦家の家宝と平戸の宝を掲載
静山と熙が見た色彩が記録

糸の細い1本までも描き込む、
「レベチ」な家宝カタログ

かせいしゅうこず

家世修古図

江戸時代 18～19世紀

個人蔵 〈通期〉



かせいしゅうこず
家世修古図

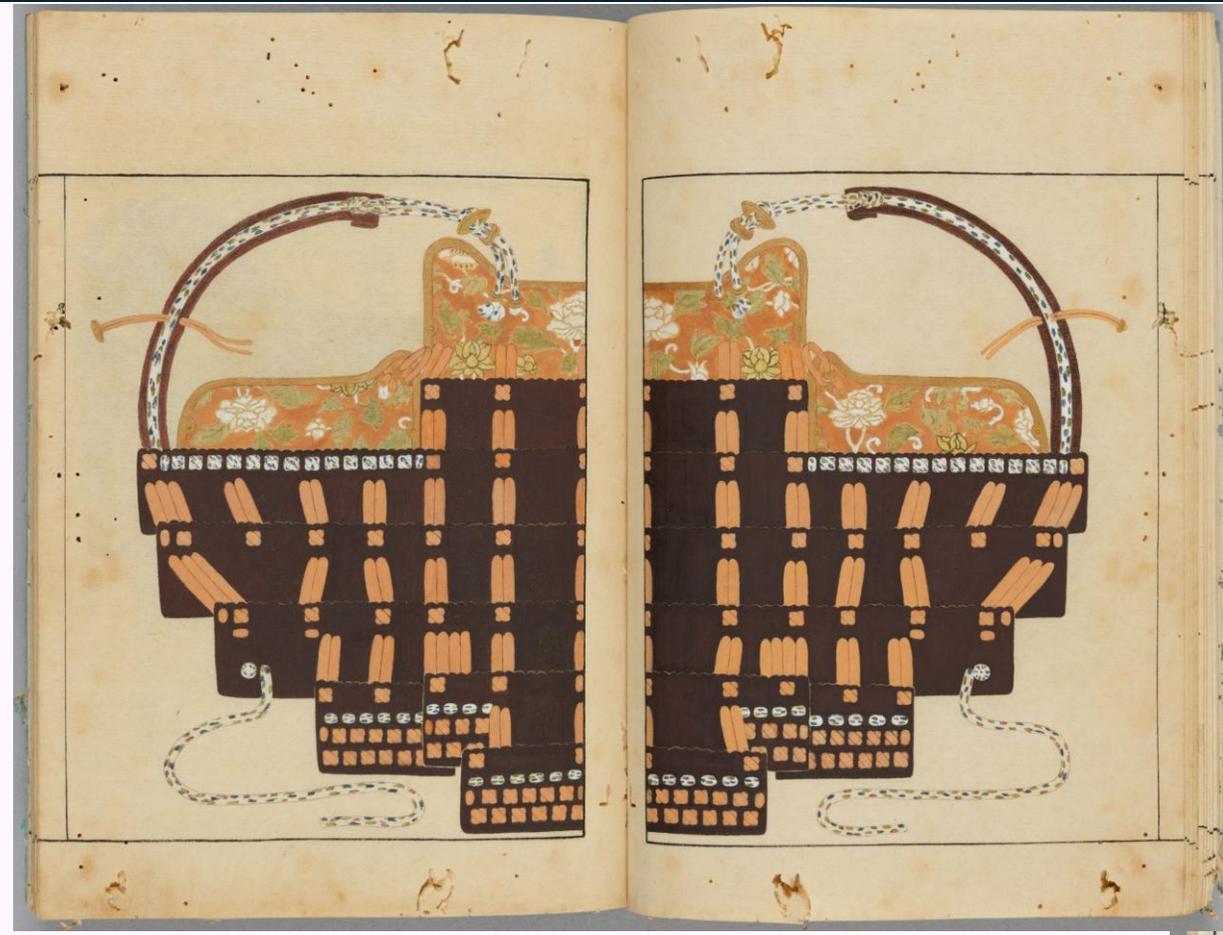
異次元な力の入れ具合と、
ありのままに事実を記録する客観性



きれ でんごだいごてんのうはかまだんぺん
裂 (伝後醍醐天皇袴断片)

南北朝時代 14世紀

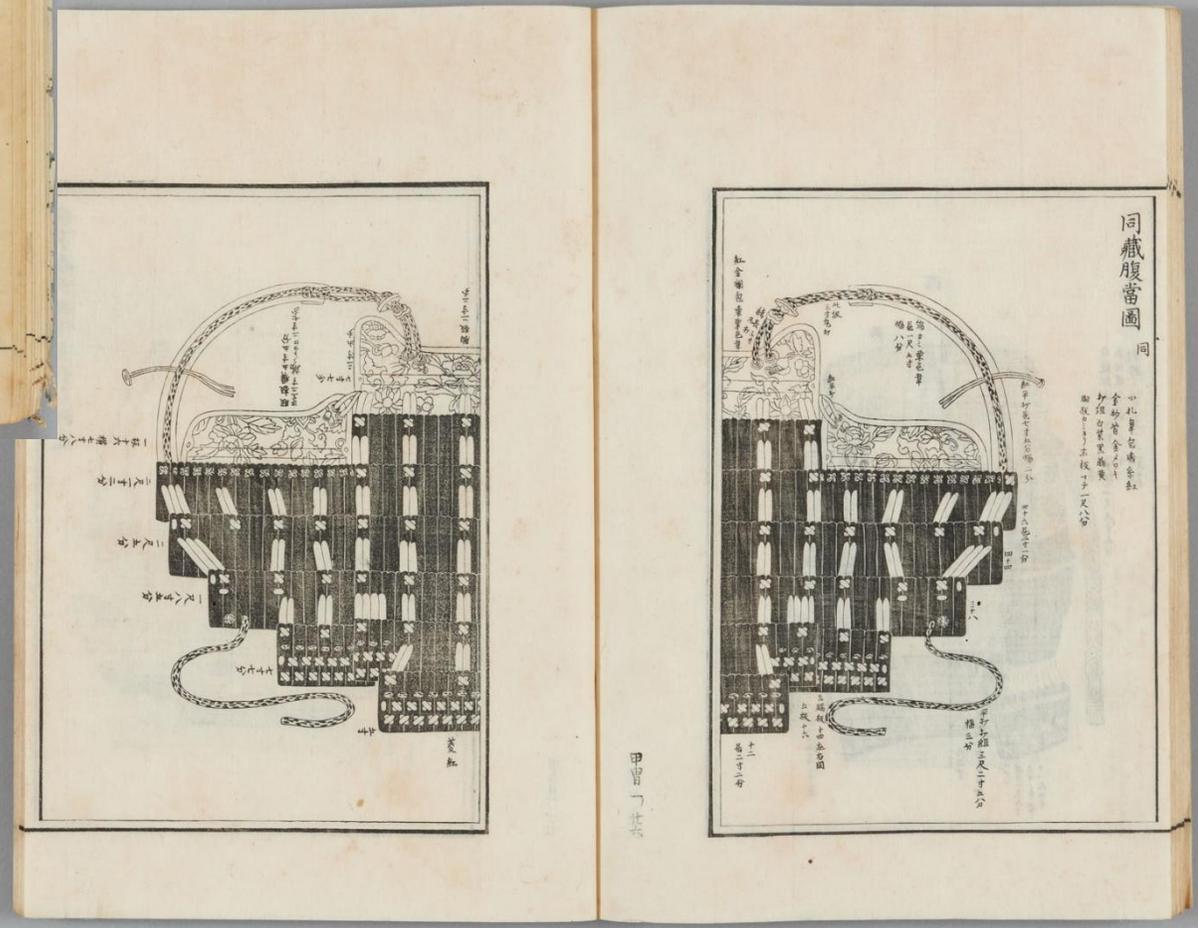
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉



かせいしゅうこず 家世修古図 腹当の図

(第1章で出品) しゅうこじっしゅ 集古十種

江戸時代 寛政12年 (1800) 刊 長崎・松浦史料博物館 <前期>



同藏腹當圖 同

室町6代将軍・足利義教が 松浦義（よろし）に下賜したと伝わる腹当



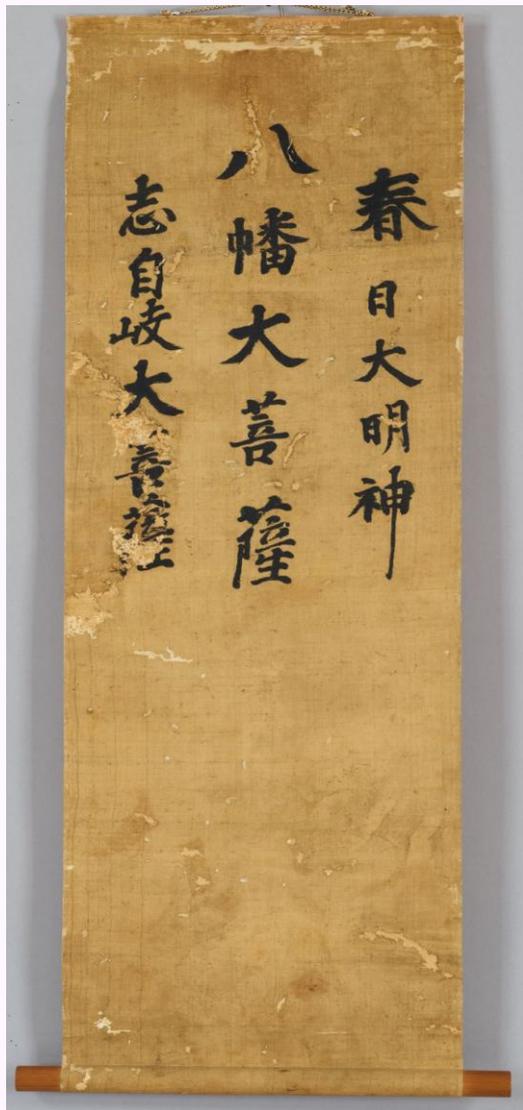
きんらん
金襴

きんぷくりん
金覆輪
= 縁を覆った金色の金属

すがけべにいとおどしはらあて
素懸紅糸威腹当

室町時代 16世紀
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

「海の領主」松浦氏にふさわしい、戦国武将・松浦隆信ゆかりの船幟



松浦家の家紋 = 三星・梶葉・二引両

いずれも長崎県指定有形文化財

はちまん・かすが・しじきしんごうき (でんばはんせんのはた)

(左) 八幡・春日・志々伎神号旗 (伝八幡船の旗)

みつぼしふたつびきりょうかじのはもんはた

(中) 三星二引両梶葉紋旗

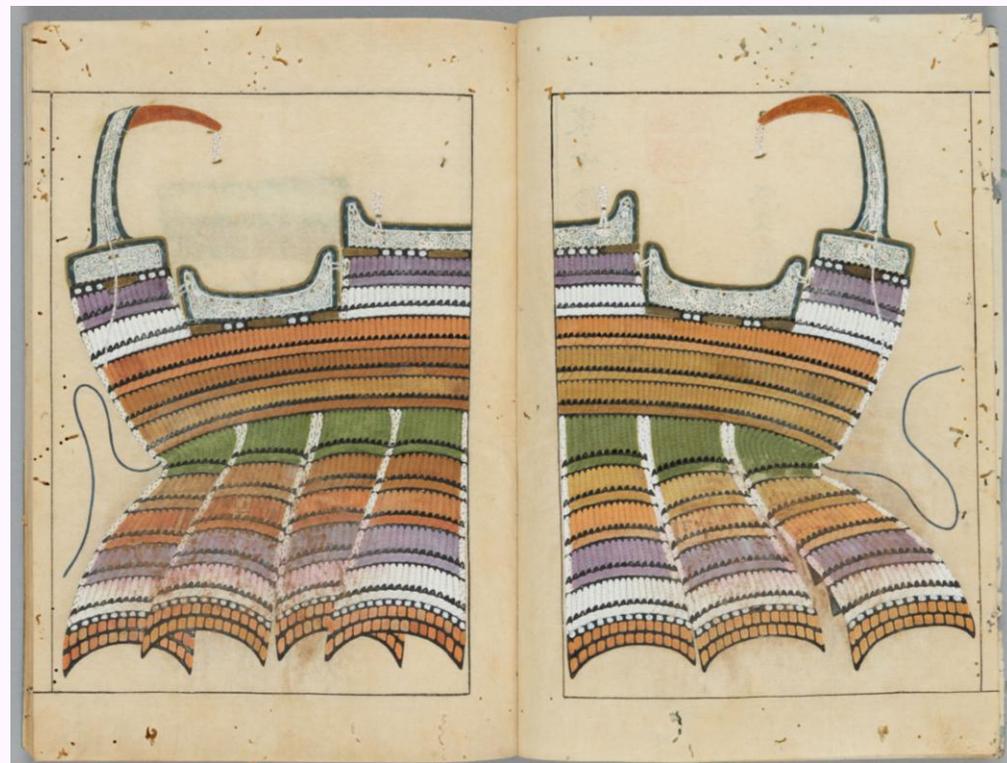
へいしみつぼしもんはた

(右) 瓶子三星紋旗

室町～安土桃山時代 16世紀

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

大友宗麟が松浦家に贈った鎧



かせいしゅうこず
家世修古図 大友腹巻の図

鎮信の「鎮」は大友宗麟
(義鎮) の名前をもらった

いろいろおどしはらまき

色々威腹巻 (大友腹巻)

室町～安土桃山時代 16世紀

長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

戦乱を生き抜いた隆信と鎮信ゆかりの武具



高253.1cm
幅108.0cm

さばおうまじるし
鯖尾馬印

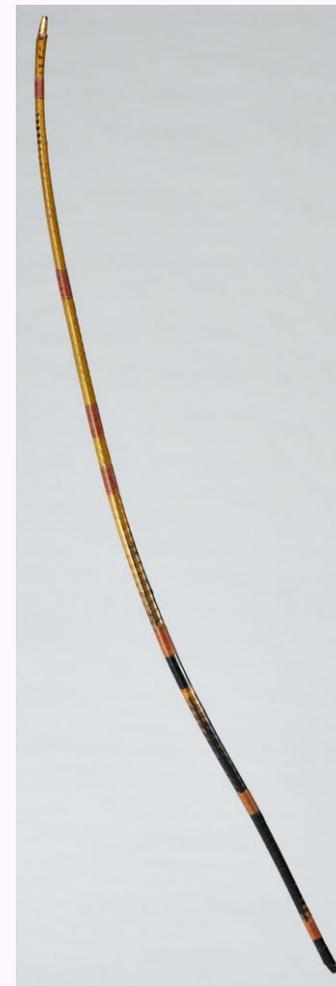
室町～安土桃山時代 16世紀
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉



張長217.5cm

りょうごくのゆみ
両国の弓

室町～安土桃山時代 16世紀
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉



張長219.6cm

やましなのゆみ
山科の弓

室町～安土桃山時代 16世紀
長崎・松浦史料博物館 〈通期〉

最後に一この展覧会で伝えたいこと ～展覧会担当者の「情熱」～



◎静山と熙が集め、伝え、残したモノの価値

2人が集めたモノの多くは写したモノ。

でもその写しが残ったからこそ、かつての姿・形がわかるものも多い。

→2人が考えたとおり、現代の私たちに歴史が伝わる。遺そうとした2人の想いも感じてほしい。

◎2人の「人間くささ」を味わう

→展示室で笑ってほしい、「現代の私たちと一緒に」と共感できる展覧会
「やわらか解説パネル」で、より親しみやすい仕掛け

◎『家世修古図』が全点公開、松浦家家宝を見比べることができる またとない機会

→この機会を逃すと、二度と見られないかも！？

やわらか解説イメージ

No.1 三勇像

眼光鋭い静山さん

えど ばくふ しょうぐん しんせき
江戸幕府の将軍のご親戚のお
やしき
屋敷に招かれた静山さん。

パーティ終わりに、友だちと一
緒に記念撮影ならぬ「記念肖像
しょうぞう
画」を描かれました。

自分の姿を描かれるのは嫌い
だったけど、この肖像画の
おかげで、研究熱心な
静山さんの眼光鋭い表情
が伝わっているのです。



No.57 松浦熙像 (狩衣寿像)

ビジュいいから描いて

42歳の厄やくが明け、お祝いでお
めかしした熙さん。「今日はビジュ
いい」と思った熙さんは、自分
の姿を描かせます。そっくりにな
るまで3回も…

この絵を気に入った熙さんは、
お城の宝物庫ほうもつこに収めて、決し
て外に出さないように命じまし
た。自分の姿を後世に伝
えようと思ったのです。



メインビジュアル

◎デザイナー

Calamari Inc. 田中慶二氏

◎デザインの方向性

- ・ポップ
- ・本展覧会の主役を目立たせる
- ・立体感や動きを出して、楽しげな雰囲気を出す
- ・中央のキャッチコピーで、2人の想いや平戸藩主としての責任感を出す

松浦史料博物館開館70周年記念・九州国立博物館開館20周年記念特別展

平戸モノ語り

藩主父子の蒐集譚
未来へ繋がれた眼差し

松浦静山と
熙の情熱

令和8年(2026)
1/20(火) → 3/15(日)

開館時間 | 午前9時30分～午後5時
毎週金・土曜日は午後8時まで夜間開館
※入館は、閉館の30分前まで
※夜間開館の実施については、九博公式サイトでご確認ください

休館日 | 毎週月曜日
※2月23日(月・祝)は開館、2月24日(火)は休館

写真撮影OK(一部撮影禁止) <太宰府天満宮横>

会場 | 3階 特別展示室

九州国立博物館

Special Exhibition Celebrating the 70th Anniversary of Matsuda Historical Museum and the 20th Anniversary of Kyushu National Museum - The Story of Hatake Exploring the Passions of Matsuda Seizan and Haruki



本展覧会の音声ガイド

俳優・九博20周年記念応援大使

いのうえ よしお

井上 芳雄 さん

お楽しみに！



〈プロフィール〉

福岡市出身

東京藝術大学音楽学部声楽科 卒業

2000年ミュージカル「エリザベート」皇太子ルドルフ役でデビュー。

以降、高い歌唱力と存在感で数々のミュージカルの舞台の主演を務める。

コンサートの開催、音楽・バラエティ番組への出演、MCを務めるなど幅広く活躍。

第33回菊田一夫演劇賞菊田一夫演劇賞、第20回読売演劇大賞 優秀男優賞

平成24年度（第63回）芸術選奨文部科学大臣新人賞などの多くの受賞歴あり。

展覧会図録

◎初公開作品の画像も多数！これまでの研究内容も反映

- ・ 出品作品はもちろん、参考図版も多数。

◎展覧会のストーリーと個別作品がリンクする構成

- ・ 「サブストーリー」として各作品の背景やつながりを解説。
- ・ 作品解説ではより詳しく。

◎外部専門家による論考あり！深く知りたい読者も満足！

- ・ 5人の専門家が寄稿。読み応えのある内容。
- ・ 研究者も満足できる資料編付き。



本展覧会の関連イベント

◎記念講演会「『平戸モノ語り』の物語」

2026年2月11日（水・祝）11:00～12:00（予定）

◎リレー講座

1回目 歴史資料から知る、平戸モノ語り

2026年2月22日（日）13:30～15:30（予定）

久家孝史氏（松浦史料博物館主任学芸員）ほか

2回目 絵画から見る、平戸モノ語り

2026年3月1日（日）13:30～15:00（予定）

3回目 工芸から楽しむ、平戸モノ語り

2026年3月15日（日）13:30～15:00（予定）

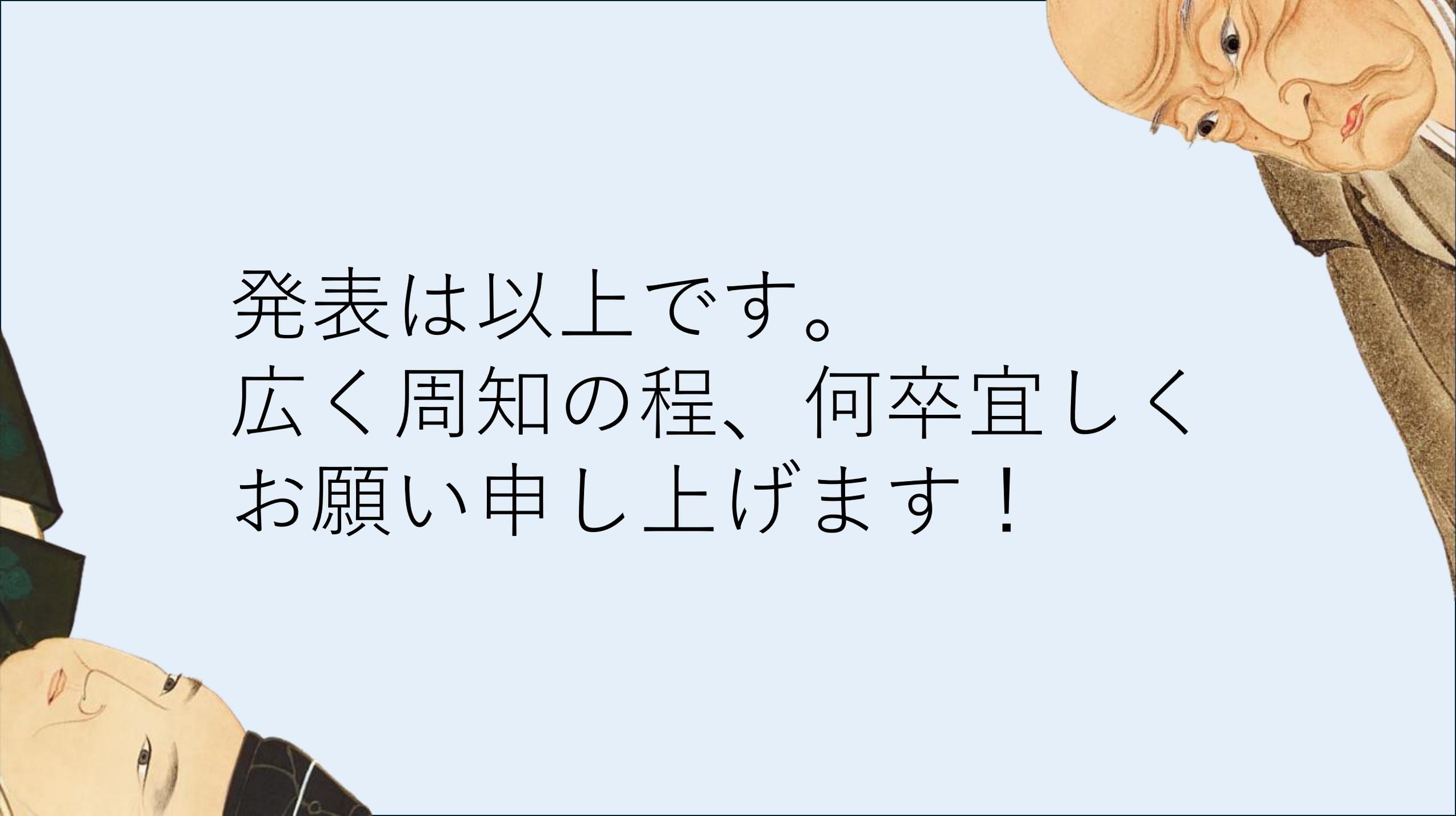
本展覧会の関連イベント

高校生鑑賞文コンクール（仮題）

若い世代の文化財鑑賞、文化への理解促進を図る

- ・実施期間：本展覧会会期中
- ・実施方法：本展覧会を鑑賞して、感じたことや考えたことを、写真を使いながら、400字程度の文章にまとめる。
- ・賞：最優秀賞1作品、優秀賞2作品、入選5作品

実施の詳細は、12月上旬、当館ホームページにてお知らせします。

An illustration of two men in suits. The man on the right is older, balding, and has a slight smile. The man on the left is younger, with dark hair, and is looking towards the older man. They are positioned on the right and left sides of the frame, respectively, against a light blue background.

発表は以上です。
広く周知の程、何卒宜しく
お願い申し上げます！